

青森県生協連「新春セミナー」開催報告

1. 日時 2018年1月26日(金) 13:30～17:00
2. 場所 アラスカ会館 3階 エメラルド
3. 参加 72名
 コープあおもり (19名) 青森県民生協 (12名) 青森県庁生協 (3名)
 津軽保健生協 (7名) 青森保健生協 (14名) 八戸医療生協 (1名) 青森県労済生協 (3名)
 弘前大学 (2名) 信用生協 (1名) 講師他 (4名) 北海道・東北地連 (1名) 県生協連 (5名)
4. 当日プログラム <司会：県生協連常務理事 鎌田 敦子>

13:30～13:40	開会挨拶 県生協連会長 平野了三
13:40～14:40	講演：持続可能な地域とは何か 人口減少社会における生協の役割 ～地域づくりの現状から課題を考える～ 講師：一般社団法人 地域再生青森会議 専務理事 三上 亨 様 七和地区活性化協議会 事務局長 飛嶋 献 様
14:40～15:20	会員生協報告 ①買い物支援活動 青森県民生協常務理事 嶋田 順一 様 ②高齢者の見守り活動 コープあおもり専務理事 菅原 正 様 ③コープくらしのたすけあい活動 県生協連事務局長 三浦 雅子
15:20～15:30	休憩
15:30～16:20	グループワーク：安心してらせる地域をめざして (12グループ)
16:20～16:55	グループ発表
16:55～17:00	まとめと閉会のあいさつ 県生協連副会長 宮本 達也

5. 概要

1月26日(金)、青森市アラスカ会館において「新春セミナー」を開催し、県内9生協から62名の組合員・職員が参加しました。

6. 開会挨拶(会長 平野了三)

平野会長より「七和地区活性化協議会からの要請を受けて、買い物支援の新たな形での展開が生まれ、生協の地域貢献の可能性を感じている。三上氏の実践に基づくご講演に学び、今後の生協の関わりを考えていきたい」との開会の挨拶がありました。



7. 講演

続いて地域再生青森会議の三上亨氏よりご講演いただきました。

- ・地域の現状と未来ということでは、将来推計人口によると青森県は2010年137万人から2040年には93万人に減少、また消滅可能都市とされたのは、40市町村中35市町村。すでに未来はある程度見えている中で、地域の未来を成り行き任せにするのではなく、自分たちの可能性を信じて「地域の自立」を目指し、努力する必要がある。各自治体・地域は前例踏襲ではなく、環境変動に対応した「やるべきことをやっていく」ことが必要。
- ・地域課題を解決していくためには、ボランティアだけの取り組みは弱いので、地域資源を活用し、地域の課題を解決し、住民が主体となって地域を元気にする公益的ビジネス＝コミュニティビジネスまで高めることが望ましい。七和移動販売がその事例と言える。
- ・「人口減少⇒産業活動の低迷⇒地域活力の低下⇒閉塞感の広がり」といった悪循環から、好循環



に転換する原動力は**希望**。地域の自立を目的にし、主体性をもってまちづくり活動に取り組む「担い手組織」（国では「地域運営組織」と呼ぶ）と立ち上げ段階から寄り添う「中間支援組織」の間に共感と信頼が生まれることで一体化した主体性が現れ、その繰り返しの中で希望が明確化していく。

- 平成 27 年 3 月、七和地区活性化協議会が七和地域住民協議会・社会福祉協議会・民生委員・児童委員協議会・社会福祉法人若菜会・暮らしの応援隊の 5 団体により設立し、県の集落経営再生・活性化事業に加え、総務省の過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業を活用した事業を、検討し実践に移してきた。小さな拠点&つながるプロジェクトでのコミュニティカフェ、助け合いプロジェクトでの、送迎サービスや買い物難民対策など。
- 七和においては、飛嶋さんという中核となる人材が「是非やりたい」ということで、組織化に向けて動き出した。協議会結成前に暮らしの応援隊が事業主体となり、さらに事務局グループ・コアメンバーと言えるメンバーが実践を支えた。
- 持続可能な地域社会構築のため、事業の P D C A サイクルを通じて、人を発掘し育てることが、中間支援組織の最大の目標。その結果として、地域に必要なたすけあい事業、コミュニティビジネスが根付き、雇用を創出していく。組織の存続・発展のためには環境変動に対応した自己創造が必要（⇒七和スタイル、移動販売の取り組みも七和スタイルで実施）であり、原動力である希望は様々なプロジェクトの検討実践の中で生まれている。「われ」という意識を超えて「われわれ意識」が作り出されると、「場」が形成され、地域全体でお互いが支え合うという共通の価値観が育っていく。
- 七和地区での今後の展開として、持続可能な地域となるため、住民が主体となって自らが考え、行政や民間団体等と協働しながら、地域に必要な公益的サービスを維持・発展させていくため、課題の明確化と解決策の実践を継続していく不断の努力が必要。課題の解決に向けて、政策提言をしながら今の試行的実践を制度化していく。お願いではなく一緒に知恵を出し、汗をかく。
- 公助・共助・自助の関係では、将来的に公助が小さくなり、共助・互助が大きくなる。
- 非営利組織の生き残り戦略として、「共感」のある運動体である事、「競争と協調」のバランスをとり（理念だけでとん挫しない冷徹な経済的収支）、自らの組織を再創造し、イノベーションすることが必要。



■ トークセッション

平野会長（生協としての発展の方向性について）

生協らしさを店舗事業の中でどう創るのかという点で、他のスーパーとの商品の品質や倫理的な側面の差別化としてコープ商品の見直しやエシカルの打ち出しがある。これまでの組合員に対しての展開から、地域社会全体との関わりを持つことが重要になっている。消滅可能性のある自治体が「互助・共助」が果たせなくなっている中で生協に求められているものが買い物難

民支援という取り組みであり、全国的な事例の紹介の中で展開が進められている。これから先に向けては、地域の要求に生協が持っている資源でどう応えていけるのか、ひとつひとつ一緒に考えることが、生協が存在し続けていけるのかにつながってくるのではと感じている。

飛嶋事務局長（買い物難民事業での地域の変化について）

改めてこの間のご協力に感謝を申し上げたい。10年間も買い物したことがない人が買い物できるようになったり、移動販売車の運転手の顔を見るのを楽しみに、来る時間を待っているとのアンケートが寄せられたり、思っていた以上の反響に驚いている。以前は、自分たち若菜会は高齢者福祉をやっていけばいいと思っていたが、それでは駄目だと分かった。地域の課題に目を向けて解決するためのエンジン役になっていかななくてはと気づいた。同じ非営利組織である生協とここまでやってこられたのは、「共感」が結びつけたと考えている。地域の人達、事業者の人達と共感で結びついていかないと人口減少、担い手不足の地域を守れない。これからも地域の人達と話し合いながら、生協と共感でつながりながらやっていきたい。



三上氏のまとめ

生協は役職員・組合員に対して満足（誘因）を提供し続け、貢献を得なければ存続できない。「売り手良し、買い手良し、世間良し（三方良し）」の近江商人の考え方そのもの。生協の新たなチャレンジは、これまでにはない「地域と連携したプロジェクト」を地域と意見交換しながら創り上げる事では？七和楽々号に留まらず、七和地区と様々な連携（農業体験、自然体験、農産物の販売等）を実施しモデル化し、更に他地域でも展開することを期待している。協同組合の仲間として共に頑張ろう。

8. 会員生協活動報告

①買い物支援活動～青森県民生協 常務理事 嶋田 順一氏

「ネットスーパー」は3,400名の組合員が会員登録し、6千以上の品揃えをとハッピードラックとの提携でベビー介護用品もお届け。「移動販売事業」は青森県内2コースで稼働。組合員の公募で10歳の女の子が命名した「スマイル便」として年間38000人にご利用いただき、愛されている。七和地区活性化協議会にノウハウを提供する形での支援を開始し、住民に支えられ喜ばれている。

その他、「夕食宅配事業」「お買い物バス」など10年近く考えながら具体化を進めてきたが、今後更に取り組みを充実させていきたい。



②高齢者等の見守り活動～コープあおもり 専務理事 菅原 正氏

2014年2月に県との協定を締結し、その後40市町村すべてと協定を締結し、地域の見守り活動に協力していく流れが整えられた。昨年度は62件の連絡をし、無事確認43件、入院10件、逝去3名、緊急搬送4件、保護依頼2件で、配達中に動けなくなっていた組合員さんへの対応により大事に至らず、むつ市長より感謝状をいただいた事例もある。配達を担当する職員には、「普通救命講習1」と「認知症サポーター養成講座」の受講を制度化している。また、こうした取り組みの報告を機関誌に掲載したところ、取組への共感の声とともに、自分たちも近所に



声掛けしたいとの感想が多数寄せられた。今後も高齢者等見守りをしっかりすすめていきたい。

③ コープくらしのたすけあいの会活動～青森県生協連事務局長 三浦雅子



会は、1998年八戸で発足後、4地域で発足した。全国で唯一県生協連のもとに組織され、発足から20年目を迎えた。しくみは、利用会員（A）活動会員（B）賛助会員（C）の会員制で、最初の窓口は各地域事務局が担い、コーディネーターが利用会員と相談し、活動会員に依頼・分担して開始となる。19年間の活動は28099件、52,666時間にも及ぶ。家事・子育て支援・通院付き添いなど依頼は多岐に渡り、民生委員・ケアマネ・生協職員・利用会員など紹介者も幅広く要望も高まっている。活動会員の減少、組合員対象の会員制である事や財政負担の問題など課題の解決の方向性を協議しながら、県内の生協の協同の力でたすけあいの輪を広げたい。

9. グループワーク：安心して暮らせる地域をめざして

A～Lの12のグループに分かれて、以下のテーマについて話し合い、全体で報告交流しました。

- ①ご講演と報告を聞いて、これからのくらしのお困りごととしてどんなことが出てくるのか
- ②安心して住み続けられる地域となるためには、何が必要か
- ③②の事柄に対して、生協はどんな役割を担っていったらいいのか

グループワークのまとめは、別紙の通りです。



10. まとめと閉会の挨拶（副会長 宮本達也）

宮本副会長より、プログラム全体に渡ってのまとめをした上で「安心して暮らせる地域づくりに向けて、具体的に取り組んでいくスタートとしていけるよう、今日学んだことと皆さんの声を活かしていきたい。各グループから、斬新なアイデアも出され、有意義な研修となったことに感謝したい。」との挨拶がありました。



グループワークで真剣に発言を聞く宮本副会長

【感想より】

■三上氏のご講演を聞いての感想（生協毎に分けました）

<コープあおもり>

- ・小さなまとまりではなく、地域で広く結びつきを考えていかななくてはいけないと思った。人を育てる、一緒にやる、リーダーを作る
- ・地域性は大事だと思った。われわれという意識が自分自身の目の前の生活を中心とした「われ」ということを超えて「われわれ」ということを大切に共感意識が共有されることで、衣・食・住を保ち地域ぐるみで安心な生活ができれば良いと思った。
- ・自分たちだけの組織の中だけには留まらず、地域に向けての活動の必要性が大、又地域の課題にも目を向けていかなければならないですね。
- ・青森の未来・・・消滅する、食い止めるために私たちができること、何があるのか高齢化、安い年金、先が見えない。考えさせられた。
- ・何を伝えたかったのか？申し訳ありませんがよくわからなかった。具体的なものが良くわからなかった。どの年代の方たちが中心に活動を行っているのか。（同様意見他1名）
- ・津軽地方は全ての市町村が消滅可能都市とされていることに驚き不安になった。コミュニティビジネスをすすめるためには、核となる人と地域の理解と住民の参加が必要と感じた。
- ・非常に有意義な内容だった。時間をもっと多くして更に詳しく聞きたかった。
- ・消滅可能都市のお話には不安を感じた。もう、しっかりとわかっているんですね。本気に考えていかなきゃならないですね。七和楽々号良いですね。田舎生まれの私はお店に行くのも大変だったので、移動販売車が来るのが楽しみだった。
- ・資料の文書が分かりづらい。造語・業界用語が多く、解説もあったが、それもイメージしづらい。もっと、シャープに何が大事でどこに問題があり、どうすべきかが分かるように提起してほしい。
- ・人口減少の原因がわからない。頑張っているところに支援していく。原因がわからなければ何を頑張ればいいのかわからないのでは？
- ・人口減少の中で、購買生協も地域の困りごとに気づき、取り組むことが大切だと思った。
- ・高齢化社会に立ち向かわなければならぬ時がきた。また、今後の地域を支えるのは人材だと感じた。
- ・40年先の事など考えもしなかったのですが、このままいけば消滅してしまうかもしれない市町村がある事、今から対策が必要な事、そしてそれをすでに取り組んでいる事を知り、すごい人たちがいることを知った。そして、その運動を未来につなげるよう担い手を作って活動している事が素晴らしいと思った。自分たちの地域を自分たちが考える、とても大切な事で、生協の活動にもつながっている事だ。

<青森保健生協>

- ・活動を理論づけることは大切だと思った。顧客の創造：地域の状況と何を望んでいるか、しっかり知ることが必要だとあらためて思った。
- ・「明るい未来」という言葉がとても印象的だった。怖い言葉もあり、やる気が起きる言葉もある。
- ・環境変動に応じた「やるべきことをやっていく」ということが印象的だった。

- ・共感資本主義という新しい言葉と意味を知った。現在の利益追求型の経済活動は止めたい。
- ・高齢化社会における青森県の現在と今後の状況が変わった。これから生協にどのような姿勢が求められているのか、どのような問題意識を持つべきなのかを理解することができた。
- ・たくさんのヒントを得ることができた。
- ・青森県内の現状が知れて良かった。
- ・勉強不足であまり理解できなかった。
- ・良かった。でも少し難しかった。
- ・医療生協として買い物難民がいるような地域に支援していけるのか改めて考えさせられた。買い物バスにナースの同乗もありか？
- ・日本の人口はこれからどんどん減り、超高齢社会…多死社会となる。青森県内の消滅可能都市5を除いての中で、六ヶ所、三沢が残るというデータは？と思う。厚労省予想？三沢には米軍基地があり、六ヶ所には核燃、なくす気がないからだろうか？これらがなくなれば消滅都市になるの？

<青森県民生協>

- ・一番印象に残ったのは、青森県の消滅可能都市が35市町村で津軽地方はすべてが消滅の可能性のある事、地域の自立を努力する事。
- ・地域の現在と未来について、問題に対しての取り組み、考え方、七和地区の活動内容他、上記に対して希望がもてる地域づくりが必要と感じた。
- ・人口問題が解決しないと。
- ・人口減少、少子高齢社会がすぐそこまで来ているので、これからどのように考え、生協職員として働いていくかを考えさせられた。
- ・これからの、青森県内に訪れるであろうソーシャルコミュニティの衰退などに対する施策の必要に対して、生協として携わっている事の必要性を考えさせられた。
- ・将来の青森の姿が大変不安に感じた。次世代が安心して暮らすために現世代の重要性を感じた。
- ・地域の自立をめざし努力する必要がある。
- ・持続可能な地域とは、貢献（労力の提供、購入、貸金提供）売り手よし、買い手よし、世間よし、一つでも欠けると持続が難しい。

<県庁生協>

- ・持続可能な地域社会構築の為に「人を発掘し育てる事」の部分が印象に残っている。

<津軽保健生協>

- ・組織作り、担い手づくりの難しさを日々私も感じている。PDCAサイクルのところなど、分析等をしながら、まちづくりをすることに挑戦してみたいと思った。
- ・講演内容は実践に裏打ちされたもので、説得力があったと思う。
- ・地域運営組織という有り様によって地域課題を解決へと導く、生協として自分たちもどのように行動するのか良く考えていきたい。
- ・将来を見据えての地域活動の大切さがわかった。地域の方々に力を発揮してもらうために生協ができることを広めていく事が大切だと思った。

<弘大生協>

- ・青森県の将来について考えさせられた。大学生協としては“学生”と“地域”どちらも見つけ、取組を新たにしていかななくてはならないと思うし、取り組む際、共感作りをしながら「われわれ」の生活を何とかしたいという人づくりをしていかななくてはならないと感じた。
- ・今後の社会を考えると、目先の利益にとらわれず、新しい社会構造を作っていく必要があると感じた。

<信用生協>

- ・地域でできることをしっかりと行っていく事が必要であると感じた。

<無記名>

- ・社会変革…たまたま人口約 2000 人の七和をモデルとして経緯をお話しされたが、対象地域の実の姿が見えてこない、実際に生活している方の実態と取り組んだ後の変化も知りたかった。むしろ、飛嶋献さんのお話を聞いてみたかった。
- ・人口減少は良く耳にしているが、改めて数字で見るとびっくりする。これからは組合員さんや地域の人達が抱えている事に寄り添う活動が必要。生協の安心・安全は今や当たり前になってきているので、これからのよりそい活動が大事になってくる。

■会員生協報告を聞いて気づいたこと（アトランダム・同意見は集約）

- ・地域に寄り添う具体的な活動が聞けて良かった。私もがんばります。
- ・生協の運動について改めて考えることができた。
- ・生協の組織・事業は頼もしいと思った。
- ・それぞれの生協の強みを活かした取組みを知る事ができた。
- ・生協だからできることがまだまだあることに気付かされた。
- ・地域のお役にたっているということを実感して仕事をしたい。
- ・改めて生協とは何かを考え、団結・連携していく事の重要性を感じた。
- ・県民生協の買い物支援の内容が詳しくわかった。車に乗れない方々には嬉しいと思う。たすけあいの会活動の料金体験や活動費、難しい依頼など詳しく知りたかった。
- ・県民生協のお買い物バスがあることを知り、同じ生協の仲間でも知らない事が多くあり、もっと交流するの必要を感じました。
- ・お買い物支援を1つのちらしにまとめて地域へ広く宣伝できればもっと広がると考えた。
- ・移動販売はこれからも大切になっていくと思うが、共同購入やネット販売などで安心して生活できる見守りが自然にできていくのでは・・・。高齢者だけでなく学童保育のようなボランティア施設等を行政に考えて欲しい。
- ・移動販売・お買い物バスは、買い物難民の方たちの為県内に広めてほしい。そこに見守りも入ると高齢者も安心して暮らせる。
- ・スーパーとの境目がはっきりしなくなっている事での「生協のウリ」見直す時なのですね。
- ・組合員はもちろんだが、組合員が住む地域との連携が大事だと思った。
- ・たすけあいの会がもう 20 年たつこと、利用者が増えて活動会員が不足気味になっていることなど、いろいろ聞けて良かった。
- ・たすけあいの会は全生協で宣伝し広めていくべきだと感じた。
- ・助け合い大切。地方に被介護者を持つ身としてはもっと広げるの必要性を感じた。
- ・地域生協では地域の課題に密着した取組みがされていて、成果を出されていると感じた。

- ・平野会長のお話がわかりやすく、また生協の役割とは、この先に向けての未来を感じさせる内容だった。
- ・更に一步進んだ取り組みをお願いしたい。仕事を通じて感謝されるのはとても働く者にとっても幸せなことだ。
- ・高齢者見守り活動、報告でも発生件数が大幅に増えている。活動の重要性に気付いた。青森県生協連の取り組みとめざしていること、たすけあい活動が理解できた。
- ・買い物難民や1人暮らし等が深刻な問題になっていることが改めてわかった。見守り活動も行っているが、どんどん進んでいく中、現在の配送体制では回りきれない感じがした。
- ・報告の取り組みを今後もどんどん拡大して行って欲しいのと、もっともっと時代に添ったのアイデアを出し合い取り組んでいく必要がある。
- ・生協らしい、共同購入ならではの「高齢者等見守り活動」はすばらしい。たすけあいの会もこれからの高齢者社会に必要な会でもっと広めたい素晴らしい活動だと思った。
- ・生協の強み資料報告は興味深いと感じた。

■グループワークで話し合っの感想・気づき

- ・三浦専務のリードでいろいろ意見が出され視野が広がった。店長さんの参加で買い物についても色々教わった。
- ・とっても楽しく話し合いができた。今年の私の目標を少し考えることができた。
- ・皆さん、感じていることに大きな違いはない。生協間の連携を↑させることは益々重要。
- ・それぞれの生活環境の中での困りごとは異なる。話を聞くことができて大変良かった。まとめまでは時間不足だった。
- ・意見を出しやすくスムーズに進んだ。地道な組合員さんとの活動が今後大切になるということに気付かされた。
- ・困りごとを挙げてみると、様々な地域、世代で異なった困りごとが多く出された。生協としての役割を話し合った時に、困りごとを解決できるのはやっぱり生協組織だと思った。
- ・食の問題への生協の新しいアプローチが意見として出された。生協コンビニタイプの新しい店舗展開＝地域集会所となる。
- ・我々の抱える課題が具体的に見え、何をなすべきかが明らかになり良かった。
- ・これからやらなければならないこと、課題が見えてきたので、生協間連携を強めていきたい。
- ・各生協のつながりを大切にしていくと大きな力になると思った。
- ・性別・年齢も違うグループで話すことができ、それぞれの年代における困りごとが良く分かった。多くのグループ発表を聞き、すごく参考になった。今後の業務において参考にしたい。
- ・生協間連携が大事。
- ・明日から、いや今日からチーム生協！！これが大切！
- ・生協連という集会でのグループワークはじめてだった。聞くことなどすべて新鮮だった。
- ・沢山話ができた。生協間協力、地域連携、組織を通して個人をつなげる、個人レベルでも地域レベルでもおたがいさまの関係、コーディネーターづくり。
- ・とても楽しかった。私たちの役目は次の世代につないでいくこと、これにつきる。ゆっくりでいいので……。又新しい人材育成が大切になってくる事。
- ・生協の役割を改めて考える機会になったと思うが、自分として何ができるだろうかと不安に

なった。

- どの生協も、組合員さんのことを本当に良く考えていると思った。一緒だと嬉しくなった。
- 同じ想い、新たな発想があった。良かった。
- 青森県が抱えている雇用問題、孤立など同じように感じ、考えていることがわかり交流できて良かった。お店のコンビニ化は実現すれば良いな。生協が作る老人ホームも良い。
- 今の活動を続けながら、学習等すすめていかなければと思った。
- 各生協の方のお話を聞き、それぞれの取り組みについて質問できて良かった。たすけあいの会での事例を聞き、活動する人を増やすにはそうするか。各グループの発表での気づきを実現できればいい。
- 非常に能力の優れた人がいることがわかり、心強かった。参加者が非常に少ないことが気になった。原因は？
- 考えていることは共通していた。逆に言えば、課題は顕在化していて、担う生協の役割も明確になっている様に思った。
- みんな困っている事が沢山あり、問題解決で悩んでいる。また、しっかり根をおろして考えている人が多い。
- 医療・購買など違う観点からの意見を聞くことができた。
- 生協だけで頑張ってもなかなか難しい。社会も国をあげて取り組んでいかなければ！問題は大きい。これまで以上につながる事が大切。生協どうしが連帯して取り組んでいく事が必要になっていく。
- 高齢者よりも子どもの放課後の課題がある。生協が関わる必要性がある。
- 人との関わりがうまくいけば、解決できるものが多いと思うが、現代社会ではそれが一番難しいのでは？つどえる場ができれば。
- 生協で出来る事と、難しいことが発見された。人口減少は市や県が動かないと難しい（雇用問題等）
- 活発な話し合いとなり、他生協の方との交流にもなった。
- 色々な地域の事例を聞き、現実的な事ばかりで勉強になった。
- 地域に根ざした活動を、施設、配達、訪問で。
- 大学生に学内だけでなく、地域社会に関心を持ってもらう、地域の役に立ってもらう取り組み、情報発信も必要と思った。
- 世代による違いはあれど、同じような困りごとを持っていることが驚きだった。
- お互いの生協を理解し、組合員サービスの充実が必要だと感じた。